

議会報告会結果報告

開催日時	令和3年11月7日（日）10時～12時			
開催場所	鎌倉市役所本庁舎2階 議会全員協議会室			
出席議員	班長	藤本 あさこ		
	司会	久坂 くにえ		
	中村 聡一郎	日向 慎吾	保坂 令子	納所 輝次
	池田 実	竹田 ゆかり	武野 裕子	くりはら えりこ
	児玉 文彦	後藤 吾郎	中里 成光	
参加人数	9人			
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年9月定例会の報告（各常任委員会、一般会計決算等審査特別委員会） ・意見聴取会（テーマ『鎌倉市の防災』） 			
内 容	<p>【議会報告会】</p> <p>〈質疑〉</p> <p>Q1： 意見聴取会で出た意見は市長にあげられると聞いたが、市民には伝えないのか。良い広報になるので、市民にぜひ伝えてほしい。</p> <p>A1：議長 皆さまのご意見はもちろん行政側に伝え、それがどのように反映されたかも皆さんに広くお示しする必要があると考える。「議会だより」ほか、いろいろな方法を通じて実現できたことがあれば広めていきたい。</p> <p>Q2： 「放課後かまくらっ子」の指定管理者に理究キッズが選定されたが、議会採決は何対何だったか。反対された方の意見はどんな内容だったか。</p> <p>A2：教育福祉常任委員長 「放課後子どもひろば」「子どもの家」の指定管理の選定結果については、1名が指定管理者制度そのものに異論があった。今回選定された施設のうち理究キッズが管理運営しているのは6施設、その運営状況は良好であるという答弁があり、その中で、直営でやるべきであるという意見もあったが多数で可決した。</p> <p>Q3： 決算特別委員会で全会一致となった「児童一人ひとりの悩みに沿って寄り添ったきめ細かな相談対応や経済的支援を求める」という意見があったが、具体的にいつごろどういう支援をやっていくのか。内容についてはいかがか。</p> <p>A3：決算特別委員長 決算特別委員会の中で、この課題について重要であるということでの大きな目標を定め、執行部に対しての要望を求めたもの。期限については特に定めていない。特にコロナ禍に</p>			

おける子どもたちの学習環境が課題となっていて、よりきめ細やかな相談対応を図るべきではないかということが議論された。内容についてはここでは資料がなく申し上げられない。

Q 4:

今回の議会報告会、聴取会における参加申し込みはいかほどか。オンラインの方が参加しやすいと感じた。

A 4: 司会

2日間で15名。

<意見>

・「放課後かまくらっ子」の指定管理者選定について

さまざまところにケアが本当にきちんといくのか懸念している。市が管理者の目で見えないといけない。愛知県犬山市では、犬山の子どもは犬山が育てるという共通の目標がある。鎌倉の子どもは鎌倉市がずっとしっかり見ていくことと遠ざかってしまうのではないかと懸念している。

・議会広報について

当事者へどのようなアプローチが必要か、議会の皆さんも積極的に取り組んでいただいていることを無駄になることなく私たちがチェックをしたいと思う。伝わらなければ難しいと思うので、ぜひ広報・発信していただきたい。

・ワクチン接種会場へのタクシー料金について

市長選の手前でもあり、税金の使い方としてどうなのか。不必要なところにまでタクシーを利用させなくてもよかったのではないか。

【意見聴取会】

1. 保育園の防災について

<質疑>

Q 5:

子どもが生まれて、複数の保育園を見学した。災害時の避難の計画について、食料の備蓄日数を教えてくれる園もあれば、少しあやふやな保育園も。避難の基準やルール、避難ルートなど市からの指示や指導はしているか。

A 5: 教育福祉常任委員長

避難計画について、鎌倉市立の保育園についてはBCP（災害時の市の業務の継続と早期復旧、市民・事業者の生命・生活・財産を守ることを目標とした「地震災害時業務継続計画」のこと）で整備している。私立の保育園については現在把握していないが、公立のものを参考にしよう働きかけを市が行うと想定される。

2. 避難所について

<質疑>

Q 6:

近隣の避難所は第二小学校だが、ハザードマップ上の災害エリアが対象内に入っており心配。どのように見られているのか。

A 6: 市民環境常任委員

鎌倉市の避難所は、第一に各小学校ということで位置づけている。大地震や津波発生時に最初に避難する場所が「避難所」ではない。特に津波などの場合は高台避難が基本となっており、「避難所」は災害発生後に自宅に戻らず生活を送るための場所、という位置づけ。大雨が降った際、避難所に行けない場合もある。各地域で「災害が起きた際にまず第一的に避難する場所」を想定していただくことが大事。「避難所」と「第一次避難場所」の使い分けが重要。

3. 防災情報の発信について

<質疑>

Q 7:

市民に避難情報を公開している中で、継続して発信をするべく方法や手段と、今考えている改善点対策などはあるか。

A 7: 市民環境常任委員

大変重要な問題提起。まず災害が発生した場合の避難情報について、防災無線が聞こえない場合もあるため、メールやLINEも含めた緊急災害情報をキャッチしていただきたい。台風時の停電・断水については、市で現状が把握できないこともある。鎌倉市ではコロナ禍により予算をつけられなかったが、防災関係の広報車を地域に回すことも重要と考え、車両の整備も検討している。「現在、当該地域では断水が起きています」「停電が起きています」「何時ごろ復旧の見通しです」といった情報を広報することが無線やメールの他にも必要。鎌倉市では市職員の地域担当制を開始している。担当職員が窓口になり町内会長と連絡を取り合う体制もスタートしており、今後充実させる予定。

4. 防災アプリについて

<質疑>

Q 8:

災害時に想定される浸水状況など、3D等で体験のできる防災アプリ等は導入しているか。

A 8: 市民環境常任委員

これまでのハザードマップは紙ベースとなっているが、鎌倉市のホームページでは、防災災害情報がオンタイムで閲覧可能。アプリは準備中とのこと。

大雨時の河川の増水など、オンラインで現地のビデオ画像が2～5分ごとに更新され、現状が把握できる状況。

避難所の混雑状況の情報発信も、今後整備される予定。

<意見>

・名古屋市は防災アプリを開発している。災害時のみでなく避難訓練時にも、どの程度浸水想定か3D体験ができる。

鎌倉は海も山もあるため、今いる場所が海拔何メートルかを平時から体験できるアプリ、あるいは訓練を実施することで市民に避難意識が醸成すると考える。

・他の市の取り組みを参考にしていきたい。

5. 職員の地域担当制について

<意見>

・過去の地域での防災に関する会議で出た話題として、職員の方々が鎌倉市民ではないということが市民にとっては懸念。職員の地域担当制にはとても大きな期待を抱く。地域の要の市民に、当該地域に住む市職員の方が連絡をするシステムが全ての地域で導入されたら、市民は安心して住める。数年前、消防署の方から「自分は横浜市民であり大災害の時たどり着く前に留められてしまってたどり着けないから皆さん各自頑張る」とうかがい、暗い気持ちになった。職員の地域担当制は始まったばかりとのこと、ぜひ市議会議員の皆さまできちんと進めていただき、進捗を教えていただきたいと強く思う。

6. 防災における多様性について

<質疑>

Q9:

避難所での多様性、性別、障害のある方の対応についてうかがいたい。聴覚障害者の方が、耳が聞こえないことによって食料配布に気づけないという話もある中で、多様性についてどう考えているか。避難訓練では多様性を配慮した避難訓練が行われているか。

A9:教育福祉常任委員長

避難所のあり方については現状課題がある。普段の避難所として開設するのが市内16の小学校の体育館となっている。体育館のバリアフリー問題、多くのトイレが和式であることは、高齢者や障害者が利用するのに厳しい状況。冷暖房の環境の問題は以前から大きな課題として市議会としても指摘しているところである。

さらに最近ではコロナ問題として「個」のスペース、例えば体育館の中に個人用のテントの持ち込みなど、取り組みを検討している。

また、男女別のトイレのほかに「みんなのトイレ」という多目的トイレが設置できないものか議論している。施設改修が求められるので時間がかかるが、きちんとした課題として取り組むよう議会としても指摘をしている。

避難訓練のあり方は行政に伝える。

A9:市民環境常任委員長

各町内会長に配慮者の名簿が回り、ご協力をいただきながら避難訓練をしていただいている地域もある。そのほか福祉避難所を設置することになっており、福祉的視点でより丁寧に配慮していくということが必要。要配慮者の方々にいかに安全に避難していただくか、いかに避難所で快適に過ごしていただくか、行政の方でも考えている。赤ちゃんの授乳室もやはり他の方の目にふれないような形で配慮が必要。

<意見>

・愛知県の豊橋市に「さくらピア」という社会福祉法人があり、多様性を踏まえた避難訓練を行っている。

<質疑>

Q10:

当事者からの情報収集の方法はどうされているのか、また今後どのように展開していくのか。

A10:教育福祉常任委員長

身体障害者協会と議員7名の懇談会を持ち、障害者にとって避難だけではなく街のあり方、例えば点字ブロックのあり方、道路との境界の問題など具体的に意見交換をした。また、医師会、歯科医師会の先生方とも意見交換を行った。特に医師会とは新型コロナウイルスのワクチン対応の課題点についてご教示いただいた。当事者団体との懇談を充実していきたい。